

慶蔵院寺報

公孫樹

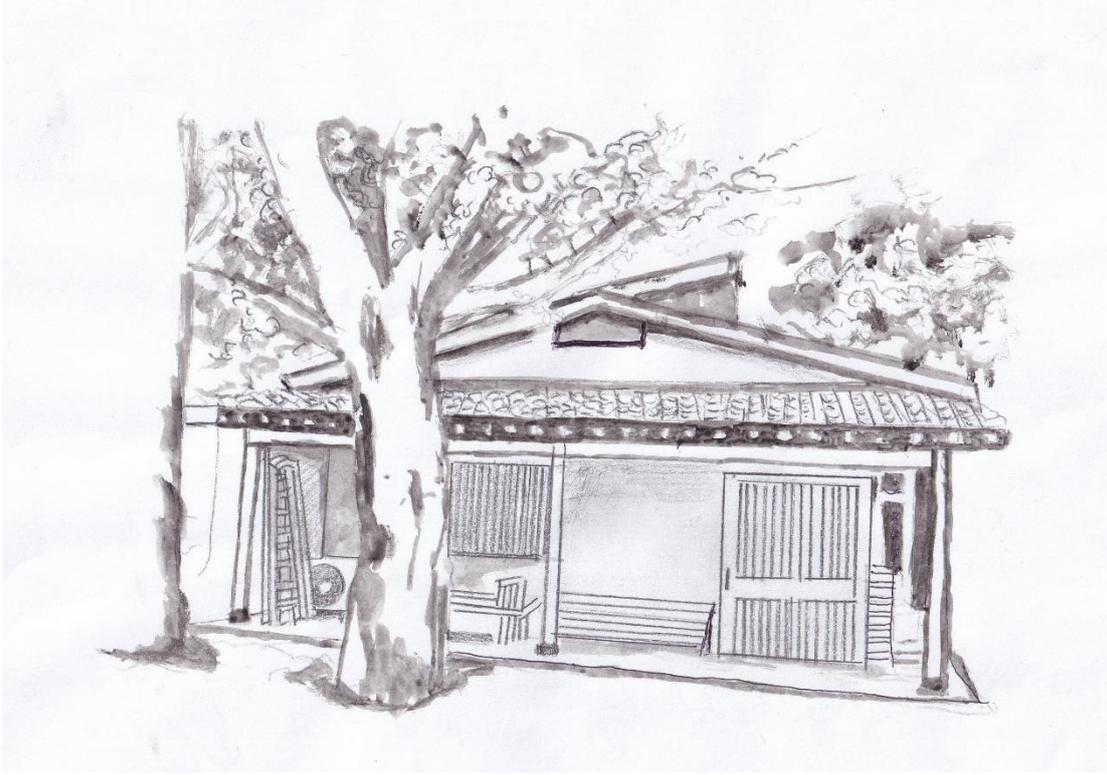
2024年7月発行

第150号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町1211

TEL 0596 (22) 3726



慶蔵院一会館

画 山寄淑子

幸せと喜びの連鎖にありがとう

六月二十四日、OKバジ、八年ぶりの講演会には四十名の参加がありました。会場でのカンパ、二万五千円、事前にお預かりしていた支援金が三十五万円。講演会終了後に、参加者から直接バジさんに手渡された多くの支援金をいただきました。ありがとうございます。

バジさんに託された支援金は、すべて現地の人々の支援に直結しています。後日、その報告が手紙でバジさんから届けられます。丁寧な字で書かれた親書としての、写真も添えられた報告書です。この労を厭うことのない、三十年間積み重ねられてきた良心がここに結集しています。バジさんの手を通して、私たちの支援がネパールの現地の人々との心をつないでいってくれるのです。

今回講演会に初めて参加された高校時代の同級生の芳賀さんに感想を書いてもらいました。紙面の都合上、一部の紹介となってしまうことが三ページに掲載させていただいています。

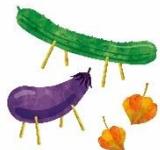
二〇〇九年ネパールが好きだという教え子に、本で知っていたOKバジに会いに行つてはどうかと紹介したことが縁となり、翌年七月にバジさんが慶蔵院に来てくださいました。そしてこの年、二〇一〇年の十二月初めてネパールにバジさんを訪ね、村の支援に同行しました。そしてサチコール村で桜井ひろ子さんと出会い、「ここに横井久美子さんに来てもらって、村人や子どもたちに歌をプレゼントしてもらおう…」と盛り上がりました。翌年の二〇一一年、サチコール村で歌ってくれた横井さんが「毎年ここに来ます」と宣言。子どもたちにギターを支援し、教え、村人総出による音楽ホールを建設、その経過を本にまとめ、二〇一九年、東京での五〇周年記念コンサートにギターを学んだ子どもたちを招待したのです。この間、バジさんは村周りを続けながら、横井さんの取り組みを見守り支え続けてくれました。

今回の講演会参加の皆さんには、横井久美子著「村人総出でつくった音楽ホール」の本が、プレゼントされました。これは横井さんのご主人、友寄さんのご好意によるものです。ありがとうございました。



7月の行事予定



3日(水)	写経会 男性詠唱隊	午前10時～ 午後7時～
10日(水)	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後7時～8時半予定
8日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後1時半～ 参加費2000円 と 花代
17日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費500円
24日(水)	地藏講・地藏堂開帳	午後1時半～
25日(木)	戦没者慰霊平和の鐘	朝の勤行にて 午前8時頃
13日・27日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円
12日(金)	七月盆棚経参り	日程は個別に 連絡させていただきます 
14日(日)	七月盆棚経参り	
15日(月)	七月盆棚経参り	
11日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 一会館にて 参加費1回1000円
12日・26日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 大人500円 一会館にて

阿部文珠院参詣記

慶成院豆知識

14

先日、桜井市にある文殊院に行ってきました。私は今、華厳経「入法界品」(善財童子が文殊菩薩の勧めで旅を始め五十三人の善友を歴訪し最後の普賢菩薩の導きによって真理の世界「法界」に入るまでを描く物語)を読んでいます。テレビ番組で阿部文殊院が紹介され、そこに獅子にのった文殊菩薩と善財童子が、三体の像と共にいるではありませんか。これは一見の価値があると思います、息子の運転の車で妻とともに国道一六六号線を高見峠越えていざ桜井目がけて出発。約三時間で目的地に着。JR近鉄桜井駅南口より南に約1km徒歩十五分の所にあります。車だと国道165号線の中和病院の交差点を左折し南に走れば駐車場の案内があり左折して狭い道を行けば割と広い駐車場があります。券売所で本堂拝観券七百元を買って(智恵のらくがん付き)靴を下駄箱へ入れて本堂の中へ。本尊の文殊菩薩は、右手に降魔の利剣、左手に蓮華を持って獅子にのって中央に鎮座しています。高さは日本最大約7mあります。善財童子は右下にあり獅子がにらんでいます。五像全て国宝で「渡海文殊群像」と呼ばれ、雲海を渡り私達衆生の魔を払い知恵を授ける説法の旅に出かけている姿だそうです。このお寺は華厳宗東大寺(奈良の大仏で有名)の別格本山で、平安時代の陰陽師安部清明もお祀りされています。外にも見どころ沢山で満足でした。

(文 麻畑公生)

垣見一雅（OK バジ）講演会 に参加して

芳

賀正明

Okバジさんは、4～5時間かけて村々を回り、村人の話を聞き、援助する活動を30年間続けてこられ、その人にしか語れない多くのエピソードを淡々と話されました。その一つ一つが宝珠のように輝いて、人と人との絆がつくられているさまが見えるようで、心底から感動して感涙してしまいました。黙々と無私で長年援助活動を実践されてきた人だから、一つ一つの言葉に人の心をうつ力があると感じました

会場からの「バジさんの活動をつぐ後継者についてどう考えていますか」という質問には、「私一人で完結してできるところまでやるだけです」ときっぱり答えられた潔さにも好感を持ちました。OKバジさんのネパールでの30年間は、本当に《一隅を照らす》活動で、その報告を聞き、心の中に暖かい光をいただいた気持ちになりました。平凡な日常の中に溶け込んだ働きの重さ、それは人に希望の力を与えます。拝金主義のまん延する日

秋の団体参拝バス旅行 ご案内

コロナ禍で延期されてきたバス旅行、やっと再開です。9月4日(水)に計画しています。今から予定を空けておいてください。行先は、倉野剛一さん推奨の「奈良で阿弥陀浄土を発見する旅」、下記の寺院を検討しています。

- ① 円城寺…阿弥陀堂の中、来迎二十五菩薩が描かれた円柱に囲まれた須弥壇に阿弥陀如来が祀られています。
- ② 浄瑠璃寺…平安の人々の祈りが伝わる現存唯一の九体仏を拝することができます。
- ③ 吉田寺…「大和のおおぼとけ」ともいわれる丈六阿弥陀に、木魚を打ってお念仏をした後、寺の縁起などの法話をいただきます。



参加費は約1万2000円の予定ですが、参加人数によって変動があります。

扉全開まだまだ夢は忘れない

奥田 悦生

(「灯り」第四集 伊勢川柳友の会誌に掲載)

落語会「いちご亭」

第2水曜 十日 午後7時

無料です
慶蔵院「一会館」

出演 法話 慶蔵院住職

落語 南遊亭栄歌

安楽亭車



麻畑公生の「浄土宗新聞」 見どころ・読みどころ



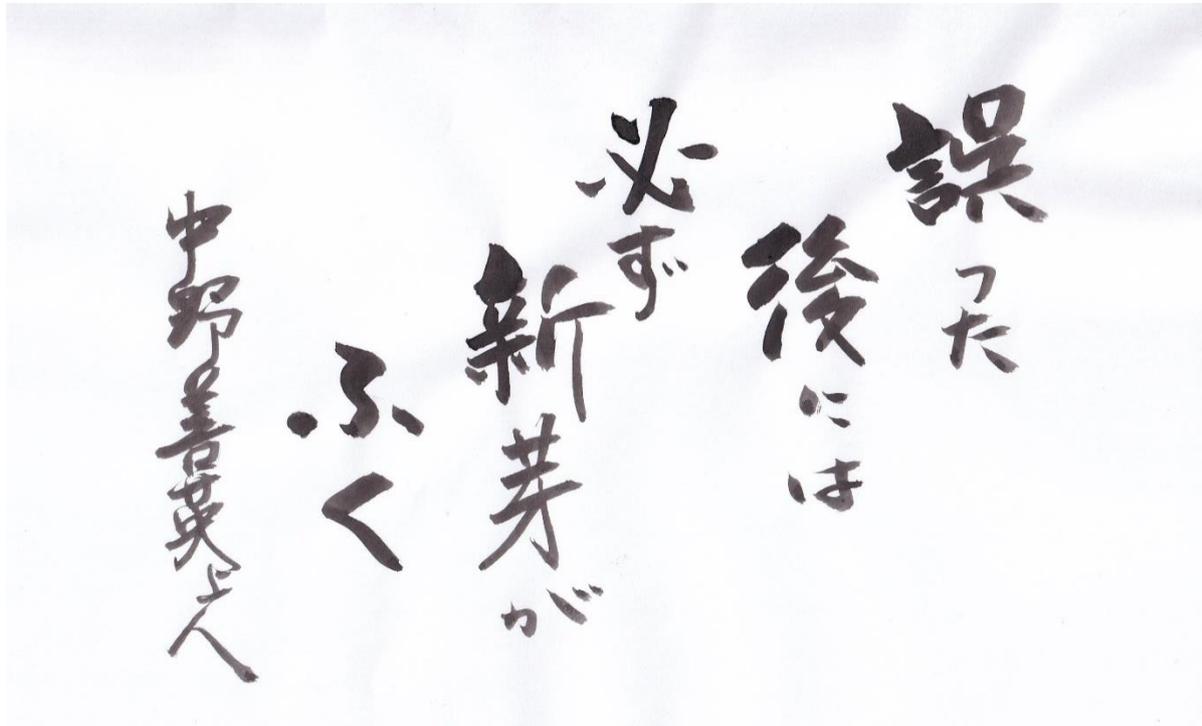
5ページの「今月の言葉」に「国際宇宙ステーション」が出ています。

私も何度も見ました。肉眼で見られます。夕方ふと空を見上げた時、冬、朝の勤行に行く途中に見ました。突然パッと現れスーと一直線に飛んでいき、徐々に暗くなって消えていきます。感動のです。

位置はネットで、日時・方角・仰角が調べられます。天文情報誌「月間天文ガイド」にも情報が載っています。私はこれであたりをつけています。

住職の健康回復への道のり (29)

睡眠時無呼吸症候群検査結果では、呼吸が止まっている回数が半分に減っており、総合判定では前進していることが明らかにされました。しかしながら今回も、三分止まっているときが一回あったことが記録されており、油断は禁物です。
尿酸値に関しては、薬を使わずに、この二年半の間に、一進一退を繰り返しながらも、最高値10であったときから、現在6・2の基準値以下に収まるように回復してきました。よく噛んで、食べ過ぎに注意



映画に行きませんか？

映画「九十歳。何がめでたい」を観ました。主演は草笛光子。九十歳の名演技。原作は佐藤愛子。同名の「九十歳。何がめでたい」と「九十八歳。戦いやまず、日は暮れず」からの脚本化。リアルさを持った喜劇に仕立てられているところに共感がわく映画となっています。

檀家さんにも、この映画を見せてあげたいと思いました。興味があればお連れしますので、映画を観たいと思われた方、お電話ください。対応させていただきます。明和のイオンです。久しく映画など行ったことがない…という皆さん、どうぞ名乗りを上げてください。日程調整をさせていただきます。今日から募集します。この映画は、年寄りが観て、元気をもらおう映画となっています。遠慮なく、電話ください。車で送迎します。

コロナが始まり、病院が閉鎖されたため、二〇二〇年五月、入院中の母親を家に戻し、兄弟で手分けして看護・介護することになりました。家に戻った時「ありがと」の字も書きかね、七月に母の願いで完成した東門の落慶式すら顔を出すことができませんでした。しかし「介護されるより、介護する方が、ずっと大変。みんなに世話になっているのだから、もう少し生きることにするわ…」と決意を表明してからの母親は、日に日に変化していきました。八月三十一日の九十一歳の誕生日を前にして、心に残ることを書き残しておきたいと、寺の歴史をまとめてくれたのが「慶蔵院豆知識」の始まりです。二年半にわたって三十一回、書き続けてくれました。

書くことで元気になり、ケーブルテレビにも出演し、言いたい放題、やりたい放題。人間は、意欲・気力に探究心・ちゃめっけ・剛毅がそなわれば生き返る…。母親とこの映画は、そのことを証明しています。お年寄り万歳です。